

圃場の冠水について

台風 15 号の集中雨で圃場冠水が発生しました。野菜の根は半日以上水没していると殆ど機能を失ってしまいます。ですから先ず表面排水を図ることが肝要です。同じ冠水状態でも流れている水や、降雨中の水は比較的酸素が溶け込んでいるので、排水がスムーズに行なわれれば何とか立ち直れますが、滞水状態になると急激に酸素が欠乏して被害が大きくなるので注意が必要です。

また、冠水した圃場はもとより、大雨に見舞われた圃場では肥料の流亡がおきていますので、雨がやんだら一般的な病害予防として Z ボルドーなどを散布します。土壌表面が乾いてきたら追肥を行い中耕してやりましょう。

今回はハウスでも浸入水が見られました。特にハウス周辺がコンクリートの土留めなどがして得る場合、一時的な大雨があると土中への浸透が間に合わず、ハウス内の通路などに水が浮いてきます。つまり、ハウスの建っている周辺を含め、溜池状態に成ってしまっているのです。こうした状況の改善を図っておく必要があります。

一時的な大雨で、排水溝の水位が上がり圃場が水没してしまうことが有ります。河川の増水から来る場合、対処方法はありますが河川の水位がさほどでもないのに冠水する場合があります。多くの場合、水路に草やワラなどが詰まるなどして流れが悪くなっている場合が少なく有りません。特に稲刈りが済んだ後はこうしたことが起こり易くなっています。大雨が予想される場合は見回りをして警戒しましょう。

また、水門の管理が不適切で冠水を招く場合も有ります。水門は農家組合が管理することが多いと思いますが、取水口を閉め忘れ河川から大量の水が圃場に流れ込むことがありますので、管理責任者は注意が必要です。

ダイコン、ハクサイ等の害虫について
(ダイコンハムシ)

ダイコン、ハクサイを食害する甲虫についての問い合わせが急増しています。犯人は「ダイコンハムシ(ダイコンサルハムシともいう)」で、5月頃から11月頃まで発生します。特に8月から9月に発生が多いようです。この虫は幼虫も成虫も食害します。主にダイコン、ハクサイ、カブ、コマツナ、キャベツなどアブラナ科野菜の、特に若い葉や成長点付近の柔らかい組織を好んで食べます。従ってこれら野菜の幼苗期の食害で、ひどい場合は枯れてしまいます。ダイコンなどの主産地では殆ど問題にならない虫ですが、家庭菜園においては、薬剤散布がされていない場合が多く、(この虫は比較的農業に弱いので、基幹防除がなされている産地ではほとんど被害がない。)周辺の雑草地から集まってきますので圃場をきれいにしておく



ブロッコリ - 圃場の滞水



畦立てがしてあっても排水溝へのつながりが悪いため滞水。



水没したブロッコリー圃場



ハウス内の浸入水。コンクリートの土留めで水の行く場がない。

ことも対策のひとつです。

産地では主要害虫ではないので登録のある薬剤は有りませんが、スピノエース顆粒水和剤、アディオオン乳剤、パダンS G水溶剤が効果有ります。オルトラン、ディプテックス、マラソン等でも効果はあるようです。成虫にランネートで効かないという生産者がおられました。また、ジェイエース粒剤、オルトラン粒剤、デナボン粒剤、ランネート微粒剤を施用しておく、食害はかなり少なくなるという試験結果が有ります。

農薬を使わない面白い対策としては、動きの鈍い早朝にハンドクリーナー（充電式の手持ち掃除機）をかけると面白いように吸い込まれてゆくという報告が有ります。

（アオムシ、ヨトウムシ）

依然としてアオムシの発生が多く、これからヨトウムシの発生、食害が多くなります。これらの害虫は成長が早いので油断すると葉がボロボロになります。また、繰り返し発生するので、7日～10日おきに3～4回定期的に防除する必要が有ります。**特にヨトウムシは大きくなるとなかなか死なないので葉裏に密集している幼虫時代にたたくことが有効です。**

（キスジノミハムシ）

この虫もダイコンハムシに近い種類ですが更に小さく、勢い良く飛び跳ねるので捕捉することも困難です。やはり幼虫も成虫も食害します。ただ、幼虫は土中で根を食害するので、ダイコン、カブでは根の表面が早い時期の食害は舐められたような跡が残り、生育後期の食害では小さな食跡が点々と残るためダイコン栽培においては重要な害虫となっています。ハクサイやコマツナなどでは成虫が葉を食害します。防除は播種、植え付け時にダイジストンやオンコル、ガゼットの粒剤を施用しておきます。成虫にはディプテックス乳剤を散布します。

（コガネムシ、ドウガネブイブイ）

主に果樹の害虫です。慣れた人でないと幼虫はカブトムシやクワガタ虫と区別困難ですが、通常土がかなりある状態のところで見られるのはコガネムシ、ドウガネブイブイの幼虫でしょう。この虫も幼虫、成虫とも植物の根を食害します。

今回の相談は、堆肥を作ってお



ダイコンハムシの食害



ダイコンハムシの幼虫と成虫。



キスジノミハムシ成虫 (2mm位)



アオムシ



葉裏に密集するヨトウムシ幼虫



ドウガネブイブイの幼虫



上記写真の葉表の状況

り圃場に施用しようとしたら変な幼虫が大量に出てきたため、施用可能かどうかの相談でした。基本的に幼虫は根を食害するので、そのまま施用することは避けたほうが良いでしょう。農薬を使う場合は、ダイアジノン粒剤を混入し密封すれば殺すことは出来ます。オルトランやジェイエース粒剤でも効果はあるでしょう。無難な方法としては、成虫として巣立つ春まで待ってから使用します。いずれにせよ堆肥中にオガクズや落ち葉などを多く使用すると発生しやすくなります。

その他 (追肥)

今年は雨続き、晴天続きと偏りが大きく、栽培管理がしづらくなっています。このため、生育も弱い傾向にありますので、追肥を一度に多くやりがちとなっています。しかし肥料で生育を持ち直すのではなく、根の環境を良くしてやるほうが大切です。当然、台風による大雨で、肥料の流亡も起きていますので追肥は必要ですが、やり過ぎては逆効果です。追肥は一株当たり指4本でつかめる程度として、10日おきくらいに2~3回やり、中耕して土壌表面を柔らかくし、空気が入りやすいようにして下さい。また、畦の間は掘り直して滞水しないよう浚えておいて下さい。

(キュウリ)

抑制作のキュウリにウドンコ病が多くなっています。ウドン粉病は湿度を得て、菌糸が発芽しはびこり、乾燥で菌の胞子が飛び広がるため、今年の天気の具合はウドン粉病にとって好適な環境になっています。激発しますと防除困難な病気で、葉が枯れこんでゆきます。防除剤はモレスタン、トリフミン、バイレトン、ストロビーなどですが、同じ剤を繰り返し使わないこと、激発した葉は取り去っておくことがポイントです。

キュウリの実が曲がる、尻が細くなるといった症状が今年は多く相談が寄せられております。基本的には、キュウリに十分な栄養が供給されていないことによります。原因は

ウドン粉病などにより葉の機能が低下している。

長雨で根が傷んでおり十分機能していない。

秋は春より日射量が少なく生産性が低下しているのに、実が多く着いている。(実の摘徐不足)

整枝不足で、わき芽の成長に栄養を取られて実への分配が少なくなっている。

などです。

曲がりが多いということで、液肥を積極的に注入しているが改善しないという声がありますが、窒素を多く入れると、ますますウドン粉病が蔓延しやすくなります。わき芽が繁茂してくるなど弊害が多くなります。追肥はある程度してゆかなければなりません。基本は、病害の防除と整枝、摘果です。



追肥のやりすぎ



— 1週間後、枯れていました。



ウドン粉病



曲がり果(尻細果)